

令和3年度すくすく泉事業計画書（案）

1 運営理念等

【運営理念】

- 「保育」、「ひろば」を2本柱として、地域子どもたちが地域みんなに愛されて育つ場をつくります。
- 樹木に囲まれた自然空間や泉文庫の豊富な絵本等の蔵書を活かして子どもの感性を育み、そこで過ごす子どもにとって、楽しく豊かな原風景となる場をつくります。
- 地域の中の多世代の交流を大切にし、子育てを通してみんなが豊かな時を過ごす場をつくります。
- 子育ての不安感、負担感、孤立感を軽減し、相談しやすく、様々な子育て情報を得られる場をつくりま

【令和3年度に力を入れて取り組みたいこと】

【ひろば・一時預かり】

- ・特に0歳、1歳が安心して過ごせる場所が少なく、ひろば利用のニーズが高い。家にこもりがちで情報交換ができないことで、育児についての知識不足や、ネット情報の受け取り方の勘違いによる悩みやストレスもみえてきている。また、発達に支援が必要な子どもの親が、他の子どもと触れ合う機会が減ったことで、その遅れに気づかない場合や、不安を抱え込む場合もあるため、できるだけ気軽に立ち寄れるハードルの低いひろばでありたいと考えている。そのための安心、安全な工夫をしていく。
- ・利用者支援事業との連携を進めていく。
- ・父親も含めた親同士がコミュニケーションを取れるようになる企画を実施する。
- ・発達に不安のある親子と、知っていてもどうしたらいいかわからずにいる親子の相互理解のきっかけをつくる。相互理解の上にインクルーシブなひろばを目指す。
- ・新型コロナウイルスの影響で、防災関係への意識が薄れている。徐々に機会を設けていきたい。
- ・一時預かりについては、引き続き、親子が安心して利用できるように研修を重ね、スタッフの質向上を目指す。

【小規模保育事業】

- ・令和2年3月末付けで常勤保育士1名退職。4月より新規採用常勤保育士2名。結果、担任が3名の体制となる。A型へ移行し、子どもが更に安心感をもち、チームとしても安定した保育をする。そのためにも、新規採用者も含め、スタッフが個々の子どもの姿から保育理念に沿って考えを出し合える場を作っていく。
- ・非常勤スタッフの保育士の資格取得をすすめていく。
- ・アドバイザーの毎月の視察や会議、テーマをもった園内研修、またオンラインを活用してキャリアアップの研修や市主催の全体研修など外部に自ら学びに行く機会を作っていく。

- ・ 中高生対象の職場体験は、保育と子育て支援施設の両方を体験できる良さを生かして行いたい。
- ・ 保育とひろばが一体となった施設ならではの子育て支援を工夫しながら進めていく。例えば、低月齢児や妊婦対象の保育園体験、乳幼児とのふれあい体験などにより早期のひろば利用につなげていく。特に離乳食は悩む親が多いので、園の離乳食をみせたり園児が食べている様子を見せながら不安解消に貢献したい。
- ・ 近隣の園とは、合同研修会などを通して、子育てを共に学び合う関係づくりをしたい。特にすくすく泉公園での遊びの充実をはかりたい。

【中長期目標】

●3 事業の連携で質を高める

小規模保育事業、一時預かり事業、地域子育て支援拠点事業がそれぞれ質の高い事業を展開すると共に、各事業の特色や良さを相互に活かして連携することで、更に利用者のニーズにあった内容を提供できるようにする。また、防災に関しては、3事業が利用者の命を守るために連携協力していく体制づくりを引き続き進めていく。

●多様な子育てに対応できる施設にする

一人親、ステップ家族、主夫、祖父母育児、外国籍、精神疾患、アレルギー疾患を有する子どもや障がい児など特別な配慮を必要とする子どもなど、様々な家族の形や子育てがある。父親の育児参加、父親同士のコミュニケーションへのアプローチも含め、子どもへの支援や保護者への配慮など、それぞれのニーズに寄り添えるようにしていきたい。

●切れ目のない支援の一翼を担う

妊婦さんへのアプローチから始まり、乳幼児期にかかわった子どもたちが小・中学生になり、やがて自分たちが子どもを育てる側になっていく、その過程にずっと地域に存在し見守るセーフティーネット、言うなれば“実家”のような場所になることをイメージしている。

●地域全体で子育てするための連携

今までにつながってきた地域の様々な人的資源を大事にしながら、更に地域との連携を深める。

●支援者同士の連携

近隣の子育てひろばや保育施設との連携に始まり、専門機関や行政との連携も含め、親子を真ん中にした支援者同士の連携を更に進める。

●運営体制の安定化と次世代へのつなぎ

支援を途切れさせないためには、立ち上げの勢いだけではなく、さらに長いスパンで安定的に運営していくことを目標に置くことが不可欠である。そのために、現スタッフの理念を引き継ぐ次世代スタッフの確保と育成を進める。

●感染症の影響に対応する

新型コロナウイルス感染症により、誰もが生活スタイルの変化を余儀なくされた。その中で、安心、安全な日常を過ごせる場を可能な限り継続していく。また、コロナ禍の子育てにうまれた新たな問題、不安、ストレスなどに対しての支援を模索し、可能なことから実行していく。

2 事業内容

NO	項 目	内 容
1	小規模保育事業について	<p>保育所保育指針に基づき作成した園独自の『全体的な計画』を柱として、0～2歳児10人という少人数の良さを活かした保育を充実させたい。その際、人権の尊重、個人情報の保護、説明責任、苦情解決に真摯に取り組み、「ひろば」との連携による子育て支援、職員の質の向上に努める。</p> <p>基本理念・基本方針</p> <p>～一人ひとりの健やかな成長発達に寄り添う保育～</p> <ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの子どもを愛し、尊重します。 子どもが最善の利益とその権利を尊重され、心身ともに健康で、未来をつくり出す力の基礎が育つよう、チームワークを活かして保育します。 ●乳幼児期を豊かにするために家庭と連携します。 人間性の土台が育つ大事な時期としての認識や子育ての喜びを共有し、今を豊かにするために保育士と保護者が連携していきます。 ●地域から生まれ、子どもを中心に地域がつながり、支えあう関係づくりをめざします。 地域の自然や様々な物的・人的資源、文化を保育に活かします。また、保育を通して多世代がつながりを深める拠点となり、地域全体の福祉や家庭支援に寄与していきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりがありのままの自分を出せる安心感を土台に、発達に応じて様々な表現し、自分で決めることを大事にしたい。保育者は子どもの心の声をよく聞き取るよう努める。そのためにも、否定語、禁止語、命令語を極力使わず、共感的、応答的にかかわる保育を更に深めていきたい。 <p>安定した保育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A型への移行 常勤保育士の担任3人を中心にし、様々なスタッフがかかわる良さも活かした保育体制づくりをしていく。また、シフトや役割分担、会議や事務などのシステムを見直し、効率的かつ安定した保育ができるようにしたい。一時預かりも保育も担える人材を育て、すくすく泉全体として更によいチームワークを作っていきたい。 ・スタッフの情報共有と資質の向上を目的として、日々の10分ミーティングや日誌の共有、ミーティングや個人案会議などの活用、年間を通したテーマを決めて、具体的な場面での子どもの読み取りや自分のかかわり方について、スタッフ同士で共有し様々な事例を検討していきたい。 ・専門性の向上では、研修チームを中心に全員で学ぶ機会として内部研修に力を入れてきた。スタッフそれぞれに必要な外部研修への参加も増やし、受講した内容をミーティング等で共有して様々な分野の最新の知識を学んでいきたい。 ・アドバイザーの先生による月1回の視察と「ひろば」と合同の現場会議を通して、子どもの成長について継続的に読みとりとかかわりを重ね、自分たちの保育についても見直してきた。更に、「ひろば」や「一時預かり」の様子も共有することができている。有効な機会として、日々の保育につなげていく。

		<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のテーマ『読み取って見たら』から、子どもの安心感や人との信頼関係を土台に、保育士が保育の中で子どものやることに価値を見出してきた。次のテーマをスタッフの学ぶ意欲につなげ、保育に正解はなく、状況の読み取りや課題などから、一人ひとりに合わせたかかわりを保育士同士でふりかえって考えていきたい。 ・家庭との連携において、これまでも日々の保護者との情報共有や成長を喜びあう関係づくりに努め、更に保護者同士のつながりを育めるようにする。情報発信として、保護者むけの図書「おうち文庫」を充実させたい。 ・アレルギーや発達上の課題をかかえた子どもへの対応は、いろいろな機関や家庭との連携を密にとり、情報の取り扱いに注意しながら進めていく。 ・防災マニュアルを土台に、避難訓練と連動しながら、動きや物などの改善と共有をする。一時預かりも含めた子どもたちの命を守り安全に保護者に引き渡すための保育と並行して、地域にある乳幼児施設としての在り方を考えていきたい。 <p>特色ある保育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一時預かり」や「ひろば」が併設された複合型の保育施設の特色を活かして、地域の親子や中高生、高齢者やボランティアという多世代との触れ合いの機会を増やして、保育の専門性を活かしながら、子育てをみんなで応援する地域づくりに貢献していきたい。今後広げていきたい活動は以下の4点である。 <p>＊元保育士による人形劇団の活躍や、利用者との交流ができるプログラム。 ＊赤ちゃんとのふれあい体験（プレママやその家族対象） ＊いずみの鳩時計などのミニイベントや日常を通した地域の親子とのかかわり ＊中学生の職場体験を受け入れ、多世代交流の中で、子どもへの理解を深めたり、母親と話すことで、育てること、自分が育てられたことなど振り返るなど、様々なことを感じ考える機会になるよう工夫をしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感覚が敏感なこの時期に五感を通して自然を楽しみ、不思議と出会う体験、命を知る経験をさせていきたい。また、歩行を確立する時期に全身を使っているような場所をたくさん歩き、体幹や足腰が強くなるようにしていく。 ・近隣保育園と連携していく。まちの保育園吉祥寺、武蔵野赤十字保育園とは、コロナ禍の中にあっても、できることから連携していきたい。また、すすくく泉公園でも色々な園と一緒に遊ぶ機会を良さとして活かす工夫をしたい。 まちの保育園吉祥寺と精華第一保育園も含め3園による合同の研修会では、近隣の保育園も参加できる仕組みづくりをしながら、地域で子どもを育てていく関係づくりをしていきたい。 <p>※小規模保育事業の保育内容の詳細については、全体的な計画に記載予定</p>
2	一時預かり事業について	<p>「一時預かり」は、以下の3点を重要な骨子としている。</p> <p>1：命を守り無事にお返しする。 2：安心して保護者を待てるような子どもの心の安定。 3：安心して子どもと離れていられるような保護者からの信頼。</p> <p>今後も、ひろば内での一時預かりの特徴を生かし、相互に声掛けをしながら一体となり、支援を続けていきたい。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・周辺には短時間子どもを預かってもらえる人間関係がない、地方出身や核家族の親が多く存在する。 「すくすく泉」は、親の傷病、冠婚葬祭、第二子出産時、または精神的肉体的負担の解消のためにも、早朝～夜間、土曜日、宿泊を含め、安心して短時間から預けられる場として、通常、200人／年ほどの登録がある。 ・子どもを預けることに不安や罪悪感を抱く親もいる。 日頃から遊びに来ることができるひろばでのオープンな預かりであることが、預ける親の大きな安心感につながっている。 実際に預かりの様子を見たり、利用者の声が聞けたりすることが、利用への心理的ハードルを下げる。理由を問わない一時預かりは「何か深い事情がある」時も、「リフレッシュ」時も、同じように利用ができることで、親が負担感を増幅させ、虐待等につながってしまうことを未然に防ぐ役割を果たしている。 ・一時預かりの利用をベースに、親同士の預け合いにも発展し、大変そうなときに手を貸すことが自然の姿として見られるようになり、また、ひろばでは、自分の子以外の子どもと遊ぶ利用者の姿も普段の光景になった。 ・一時預かりに預けられている状況は、子どもが不安定になりやすい。そのためにスタッフが自身の子育て経験を活かし、母親のように寄り添うことを基本としている。そうした母親目線を大切にしながら、他者の子どもを預かるという重大な責務を負うべく、情報交換、内部・外部の研修の受講などを大事にしている。保護者にとってスタッフは、子育ての日常の一部を支える身近な存在であり、一緒に子どもの成長を喜んでくれる気負いのない相談相手となっている。スタッフのほとんどが地域の人であることは、彼女たちが発信源となり、子育てに関する地域の理解が高まるきっかけにもなっている。 ・新型コロナ感染症の影響により、人数制限、時短が続き、思うように予約が取れないという状況ではあるが、利用のニーズは継続しており、必要な支援であるとする。人数制限以外に、理由により対応する緊急対応もある。
3	<p>地域子育て支援拠点事業について （「泉文庫」の管理・活用方法、公園を活用した展開等を含む）</p>	<p>日常のひろば</p> <p>傾聴と情報共有を軸にし、利用者それぞれの状況や悩みなどに、スタッフみんなで気を配り、言葉かけや働きかけを考える。「技術を持って空気感をつくる」を常に意識していく。</p> <p>また、おもちゃ、環境の工夫、わらべうたや手遊びの時間帯を設けたり、季節を感じられるよう日常に変化をもたせる。工作コーナーは、親子が一緒に作る楽しさを提供する。</p> <p>利用者に関わる中で必要に応じ各専門機関と繋ぐ。</p> <p>初めての親子も、スタッフとともに利用者みんなであたたかく迎え入れることを大切にする。利用者を“お客様”にせず、この場を一緒につくる仲間として意見を聞き、取り入れていく。</p> <p>プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期プログラム <ul style="list-style-type: none"> *手遊び（毎日・内容は月替わり）*わらべうた（週1回） *読み聞かせ（月2回）*ベビーマッサージ（月1回）

＊助産師による計測と相談（月 1 回）＊誕生会（月 1 回）

・ 不定期のプログラム (Zoom 併用)

＊コンサート ＊アートイベント ＊離乳食講座 ＊幼稚園ママの話を聞く会
＊保活の基礎知識 ＊発達に不安のある子たちのピアサポートの機会 ＊パパ
の子育て応援講座 ＊親の癒しプログラム（アロマやストレッチなど）

泉文庫

泉文庫は、日常のひろばや一時預かりが楽しむほか、月に 2 回の読み聞かせにも活用。赤ちゃんの興味を引くような絵本や、大型絵本も足しながら、絵本の世界を保護者も含めて一緒に楽しめる工夫を続ける。また、手軽に手に取れる保護者向けの本も内容を確認しながら加えていく。

子育て相談

お母さん同士で話題を出し合えるような掲示板をつくっていたが、今はそれがなくても気軽におしゃべりができるようになってきたので、ちょっとした悩みや疑問は、スタッフがファシリテーターの役目をしてみんなで一緒に考える。

個別の相談については、疑問に答えることよりも、まずは聴き、信頼関係のもと、必要であれば専門家につなげる。

専門家に気軽に相談できる場としては内部保育士との連携はもちろん、「助産師による計測」や「栄養士による離乳食講座」などのプログラム参加ができる。

悩みを抱えた親子が必要な情報を得られるように、情報コーナーの充実とともに、実際に専門機関等と顔の見えるつながりをつくることにより、的確な手助けにつなげていきたい。

相談室がないことが、実際どの程度のマイナスかはわからないが、この狭い空間の中で特別な部屋に入るというハードルの高さを考え、設けていない。相談には、時には公園も活用し、その都度話しやすい場で自然に見えるように話をし、知り得た情報には、スタッフ全員が知る、ひろばスタッフだけが知る、コアスタッフだけが知る、とランク付けをしている。

利用者の活動

「ゆずっちょ」（譲ります、下さいの掲示版）の活用が活発化している。不要になった子育てグッズを譲りたいが、リサイクルセンターでは需要が無いと言われ受けてもらいにくい、図書館など公の場所に連絡先が貼られるのは不安、ということから利用されている。直接ひろばで会って受け渡しをすることで、利用者同士の交流も生まれている。

「ママ部活」など、利用者同士が主体的に何かをすることができていない。今は気持ちに余裕がないように感じるため、コロナが落ち着いたら会話の中から可能性を探っていく。

公園の活用

緑ボランティアとの連携により、貴重な自然環境を守り、子育てに活用していく。季節を感じ、のびのびと遊べる公園は、子どもたちの原風景となる。

また、16 時に閉所後も 30 分程門を開放し、公園用のおもちゃを使えるようにしている。「終わりだからさようなら」ではなく、一旦、公園遊びをする時間を作ることで、子どもたちが満足し、納得して帰っていけるよう工夫している。

砂場おもちゃの紛失、破損の管理が難しく、利用者にセットで貸し出す方式

		<p>に変更。その他のフープや缶げた、ボールなどは今まで通り自由に使用できる。</p> <p>こらぼのコミセン親子ひろば</p> <p>中町集会所で月2回開催の親子ひろばに出張。すくすく泉のノウハウを活かして親子が安心して楽しく過ごせる場を展開している。「すくすく泉」の周知・利用にもつながり、逆に「すくすく泉」利用親子の行き場の選択肢を増やしている。コミセンを利用する活動を通して、地域の方、他の団体との繋がりも深める。（武蔵野市共助による子育てひろば事業）</p>
4	上記3事業の相互の関わり方や、その他について	<ul style="list-style-type: none"> ●3事業のどれを利用しても、利用者に運営理念が伝わる一貫した対応をする。 ●スタッフが資質・課題解決力向上のために、学びや話し合いの機会を内・外にもつ。専門家による講座や連携園との研修会、ミーティングにおけるワークショップ等。また、外部有料研修に参加の場合の補助金制度を設けている。 ●事業は分離して運営されているものではなく、それぞれの専門性を軸にしながら交流の機会を持っている。それぞれの利用者に有益な支援を複合的に考え実行している。 ●常勤スタッフが必要に応じて運営会議をし、全体を考えながら3事業を進めていく体制にしたため、相互理解が深まり、また問題点も明確になって全体としての解決策や今後の方針がみえてきた。 ●日常的に3事業の利用者が公園で一緒に遊んでいる。そこに近隣の保育園や小学校、また地域の方々も加わり交流がうまれている。 ●3事業、もしくは2事業と一緒に企画し準備して進めるプログラム。 ●3事業のスタッフは、基本的には各事業に専従しているが、必要に応じて行き来もする。研修やミーティングへは、事業を越えての参加が可能である。お互いにいつでもサポートができるスタッフを増やすことで、何かあっても支え合える体制をつくっていく。

5	<p>地域参加・参画方法 （中高生や高齢者の事業参加や、地域ボランティアのイベント参加、地域住民が団体の会員となり保育を担う等）</p>	<p>この施設は、「子育てを中心に 地域みんなで 未来をつくる場所」であると考えている。</p> <p>「人格形成に特に大切な乳幼児期の子育てを、親だけに負担をかけるのではなく、親子を地域みんなで支えていく。そうして育つ子どもたち、安心して子育てをした親たちが、やがてこの地域の未来をつくる」との考え方のもと、様々なかたちで地域の力をとり入れていく。</p> <p>現在すでに以下のように、関わる仕組みをつくっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> * ボランティア「葉っぱさん」（地域のどなたでも、自分のできること、したいことを登録でき、それに合わせてこちらからお手伝いをお願いする） 読み聞かせ・手作りおもちゃ作成・お花の入れ替え・草むしり等 * 中高生ボランティアの受け入れ。 * 中学生の職場体験の受け入れ * 公園利用者（高齢者、小学生など）との積極的な関わり。 * 誰もが参加できるオープンなプログラム（季節の行事、コンサート等） * 「昔あそびカフェ」と題した、高齢者と子育て世代の交流の場 * 地域民生委員のコーラス * 利用者親の主催するコンサートやヨガ講座等 * 孫を連れて、祖父母の利用の積極的受け入れ * 地域の人がスタッフになる。 * NPO 会員や寄付等で運営を支える * 緑ボランティアとして参加して公園を整備する * 地域のお祭りに、お菓子のふるまいや、お楽しみ企画で参加 <p>もともと泉幼稚園跡地を利用するにあたり、多くの地域の方の思いや願いがあった。その方たちは、あたたかく、時に大変厳しい目で、この施設がどうなっているのかを見守り、支えようとして下さっている。</p> <p>私たちは主に親子ひろばを活用し、こうした地域の方たちとのつながりを大切に深めることにより、多くの親子を自然に地域につないでいくという役割を担っている。</p> <p>●新型コロナウイルス感染症が収束しないため、特に地域との直接的な関わりが持ちづらくなっている。計画としては上記を挙げたが、状況によっては中止、延期、また、リモートを活用するなど臨機応変に進めていきたいと考えている。</p> <p>地域子育て応援マーク活動</p> <p>会員、理事会、スタッフが一緒に進めているボランティア活動。 子育てを見守る側がつけるマークを発案。</p> <p>「いずみのひろば」を運営する中で、「赤ちゃんが泣いてしまうと肩身が狭い」「いやいや期の子どもがいるので、周囲にしつけができていないと見られているようで外出がし辛い」などと、多くの親が緊張感を持った子育てをしていることに気付いた。一方、この地域には、おおらかな目で子育てを見守っている高齢者や子育て経験者、中高生がいることも知っている。この両者を見に見える形でつなげようというコンセプトである。</p>
---	--	--

3 施設内容・内部体制

NO	項 目	内 容		備 考
1	開 設 時 間	小規模保育事業	7:30～19:00(基本保育時間8:30～17:00 の 中 で 8 時 間 を 個 別 契 約) ※満1歳児未満は18時まで	基本時間内のうち8時間での短時間保育、それ以外は延長保育となる
		一時預かり事業	基本8:30～17:30 早朝7:00～8:30(休止中) 夜間17:30～22:00(～19:00) 宿泊22:00～7:00(休止中)	利用時間は最長6時間
		ひろば事業	10:00～16:00	
2	開 設 曜 日	小規模保育事業	月、火、水、木、金	保護者会などは休日に開催することもある
		一時預かり事業	月、火、水、木、金、土	
		ひろば事業	火、水、木、金、土	
3	休 日	小規模保育事業	土、日、祝祭日、12/29～1/3	
		一時預かり事業	日、祝祭日、12/29～1/5、8/13～15	その他臨時休
		ひろば事業	日、月、祝祭日、12/29～1/5、8/13～15	その他臨時休
5	施設利用対象者	小規模保育事業	市内在住の生後57日目から3歳まで(当該年度において4歳に達する児童を除く)	
		一時預かり事業	市内在住の6ヶ月から小学6年生まで	利用登録が必要
		ひろば事業	主に0歳～未就学児の親子(妊婦含む)、孫育ての祖父母等、保護者と一緒の子ども	利用登録が必要
6	利 用 料 金	小規模保育事業	小規模認可園の短時間保育の基準による	<ul style="list-style-type: none"> ●昼食代、おやつ代、夕方の捕食代、ミルク代が含まれる ●短時間認定外の延長は15分200円 ●希望者オムツ代月額4400円 ●前々日降園時以降の急な時間延長は割増料100円/15分
		一時預かり事業	<ul style="list-style-type: none"> ●メンバー利用 入会登録料2,000円 早朝:7:00～8:30 500円/30分 通常:8:30～17:30 400円/30分 夜間:17:30～22:00 500円/30分 ・0歳児加算 100円/30分 ・延長(遅刻)料金 通常250円/15分 早朝・夜間300円/15分 ●ビジター利用 入会登録料 無料 早朝:7:00～8:30 600円/30分 通常:8:30～17:30 500円/30分 夜間:17:30～22:00 600円/30分 ・0歳児加算 100円/30分 ・延長(遅刻)料金 通常300円/15分 早朝・夜間50円/15分 	

			●宿泊 22:00～翌 7:00 メンバー 9,000 円 ビジター 10,800 円 ・ 0 歳時加算 1,000 円	
		ひろば事業	無料	カフェ、おむつ実費。イベント参加費、講習会参加費などは必要に応じて徴収する
7	職員配置 (資格の有無も記載)	小規模保育事業	0 歳児 3 人に保育士 1 人 1 ～ 2 歳児 6 人に保育士 1 人 保育士 2 人 ※小規模保育事業（A 型）の規定による	子どもの人数による変則シフト制
		一時預かり事業	子どもの人数に応じて、保育士または所定の研修を受けたスタッフを含む 2 人以上（0 歳児 1 対 1、1 歳児以上 子ども 1 ～ 3 人：大人 2 人以上、子ども 4 人～5 人：大人 3 人以上）	
		ひろば事業	ひろば専任スタッフ常時 2 名以上	（イベント時必要に応じて増員）
8	スタッフ賃金 (時給等)	すくすく泉施設長	すくすく泉施設長(常勤) 月 160 時間 210,200 円	・ 社会保険完備 ・ 職責手当 30,000 円 ・ 専門職手当 10,000 円
		経理事務	常勤事務員 月 160 時間 210,200 円	・ 社会保険完備 ・ 職責手当 7,000 円 ・ 専門職手当 10,000 円
		小規模保育事業	保育施設長(常勤) 月 160 時間 210,200 円 常勤保育士 月 160 時間 210,200 円 月 120 時間 157,650 円 非常勤保育士・栄養士 7:30～8:30 1,140 円/時 8:30～17:30 1,056 円/時 17:30 以降 1,140 円/時 基準保育士・給食 7:30～8:30 1,097 円/時 8:30～17:30 1,016 円/時 17:30 以降 1,097 円/時	・ 社会保険完備 ・ 職責手当 20,000 円 ・ 専門職手当 10,000 円 ・ 社会保険完備 ・ 職責手当 7,000 円 5,000 円 ・ 専門職手当 10,000 円 ・ 献立作成事務手当（5,000 円/1 月） ・ 買い物手当（1,000 円/1 月） ・ 処遇改善費、キャリアアップ等の臨時の支給あり。 ・ 事務、ラスト業務・会議（時給）（その他就業規則による）
		一時預かり事業	保育士有資格者 7:00～8:30 1,140 円/時 8:30～17:30 1,056 円/時 17:30～22:00 1,140 円/時 22:00～7:00 16,000 円/泊 7:00～8:30 1,097 円/時 8:30～17:30 1,016 円/時 17:30～22:00 1,097 円/時 22:00～7:00 16,000 円/泊	・ 社会保険完備 ・ シフト組手当(1,200 円/1 日) ・ シフト確定後のキャンセルは 60%支給 ・ ラスト業務、会議（時給）（その他就業規則による）

		ひろば事業	保育士有資格者 1,056 円/時 10:00～16:00 1,016 円/時	社会保険完備 ・シフト組手当(1,200 円/1 週) ・ラスト業務、会議(時給)(その他就業規則による)
9	年間開設予定日数	小規模保育事業	242 日 (2021 年度)	
		一時預かり事業	285 日 (2021 年度)	
		ひろば事業	242 日 (2021 年度)	
	年間利用者数／1 日平均利用者数(見込)	小規模保育事業	10 人	
		一時預かり事業	5 人	
		ひろば事業	30 人	